

全国農政連推薦・農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

【通常国会での法案等の審議】

第213回通常国会における各法案等の審議がはじまっています。農林水産分野では、「食料・農業・農村基本法改正法案」をはじめ、6本の法案が提出されており、衆議院での審議がすすみ、参議院農林水産委員会でも各法案の審議が始まりました。4月5日には、1本法案(特定農産加工業経営改善臨時措置法案)が参議院本会議で可決・成立しました。

いよいよ4月19日には、「食料・農業・農村基本法改正法案」が衆議院を通過し、参議院での審議が始まることも、5月連休明け以降、農林水産委員会での議論が本格化する見込みです。私が、参議院議員に当選させていたから、8年目となりますが、当初より継続的に訴えてきたのが「食料安全保障の確立」の重要性であり、それが今回の基本法改正法案の核であります。法案成立に向けて、全力で取り組んでまいります。

また、本通常国会から、参議院災害対策特別



▲4月3日参議院災害対策特別委員会

別委員会の委員を拜命致しました。4月3日の委員会を皮切りに、今後、災害対策の基本施策および能登半島地震をはじめ頻発している自然災害への対応等について審議が進められていきますので、私もしっかりと審議に参加していきます。

【自民党の農林関連国会等に精力的に参加】

通常国会の期間中のため、自民党の国会も数多く開催されています。私は、自民党農林部会長代理として、農林関連の各国会に精力的に参加し、発言させていただいております。自民党では、その時々的重要課題について、常に活発な議論を行い、政策に「反映しており、私もしっかりと参加して、意見反映に努めてまいります。」

- 4月上旬に参加した主な自民党の国会等
- 4月2日・12日：林政対策委員会
- 4月3日：トック輸送振興議員連盟総会
- 4月3日・11日：農産物輸出促進対策委員会
- 4月4日・11日：食料産業政策委員会
- 4月9日・16日：農林役員会
- 4月10日：農民の健康を創る会議連
- 4月11日：食品ロス削減・食品寄附促進PT
- 4月12日・17日：総合農林政策調査会、農林部会・林政対策委員会合同会議



▲4月10日自民党・農民の健康を創る会

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

米づくりの評価と国への

これからの米政策と地域における取り組みについて考えてみたいと思います。私の持論ですが、「わが国の米づくりの崩壊は「日本をつぶす」ことになると確信しています。」

どうも、多くの稲作農家の不満は、米価等による収入が十分でない、かつての比較においても、皆、規模拡大や「コスト低減に努力しているにも関わらず、人手の確保や、機械投資等の経費や、忙しい働き甲斐と比較して、相対的に収益が出ていない」というものです。これでは、米づくりの魅力が失われ、情熱や熱意は低下し、将来の希望も希薄になってしまいます。

こうした実態を、もっといねいに分析し、真に主食たる米の安定供給と、収益と、そして誇りを持った農業者をつくり上げるといふ農業づくり、地域づくり、国づくりが求められます。しっかりとした収益の確保と誇りを得られるという状況をつくりあげていかなければなりません。

改めて、国をあげて、米づくりの重要性を訴え、国を支えていること、地域を支えていること、そして、国民の主食を安定供給していること、等々をしつかり、国政の基本に位置付け直すことをこころ行くべきなのかもしれません。

そうしなければ、米づくりは崩れ、ふるさと壊れ、海外から安い米が入り、農業者の誇りも消えて、それこそ、「日本の主食たる米は、日本人からも評価されない形のものになってしまいます。」

まさに、アジア・モンスーンにあつて、雨も多く、山がちであるという条件のなかでも、日本の風土に合ひ、国づくりの基礎としてつくりあげられてきた、主食たる「米づくり」の意義を、そして、「生産・流通消費」の仕組みと、生産者の努力を活かした米政策の展開と、国民の合意をきちんと大切にしていける取り組みこそが大切なのです。

「水田」を失ったとき、日本の国土は崩壊してしまいます。このことを踏まえた、米づくり、農地の利用、国民の主食たる米の意義を再認識してもらえぬ農業政策を展開しようではありませんか。



▲無電柱化小委員会視察